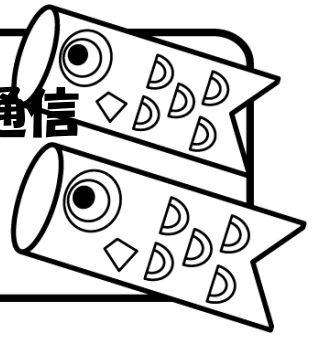


青木村子どもはつらつネットワーク通信

平成29年度 第140号 5月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行



今月号では、今年度の保小中の重点目標を保育園長、小中学校長にお伺いしました。



青木村保育園の保育目標

園長 多田 治由

新年度がスタートして約2週間になり、未満児から進級したお友だちが多いこともあってか、新入園児のみなさんも少しずつ園の生活にも慣れ、元気に活動する声が聞こえてくるようになってきました。保護者の皆様にはお子さんを温かく見守っていただき、楽しい園生活が送れますようご協力をお願いいたします。

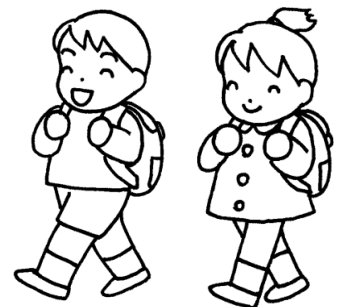


保育園では平成26年度から『明るく元気に遊べる子』を保育目標に活動を進めています。外遊びを中心とした「遊び込み」により、自分たちで考えて（工夫して）遊ぶことや、人と関わりながら、楽しく遊ぶことなどを学び、元気に走り回り健康な体づくりを目指します。

- 1、 明るい子・・・素直で心温かな、他人を思いやれる子
- 2、 元気な子・・・少々のことにはへこたれない、健康な身体と心の子
- 3、 遊べる子・・・ルールを理解し、色々な人と関われる子

上記の子ども像の実現のためにいくつかの重点を定めていますが、「健康な体をつくる」を今年度の最優先の重点とします。

昨年に引き続いて重点として取り組めますが、乳幼児期に活動する内容が成長してからの身体機能に大きく影響することが分かっています。例えば、身体を大きく使った動きがしっかりできないと、体幹が鍛えられないため正しい姿勢が保持できなったり、手先の細かな作業が苦手だったりするといわれています。その年齢や時期に応じた動きや体験ができるように配慮したいと思います。また、体力づくりとあわせて「歩く」をテーマに、「散歩」にも多く出て、地域の自然や歴史などに沢山触れることも大切にしたいと考えます。子ども



たちを見かけましたら、気軽に声を掛けていただくと幸いです。

そして、健康な身体づくりに欠かせないのが食育です。保育園児では極端な肥満などで気になる子はあまり見受けられませんが、量と質そして栄養のバランスのとれた食事が大切です。また、食事を楽しむことも大変重要です。それぞれのご家庭でも家族だんらんの時間としても活用するなど、ご協力いただくと嬉しく思います。

保育園ではご家庭と情報を共有しながら一緒に取り組みたいと思いますので、子どもたちが安心して生活できるような環境づくりにご理解とご協力をお願いいたします。

また、保護者の皆様をはじめ地域の皆様には保育園の行事をはじめ、色々な場面で保育園の活動にご支援をお願いすることもあります。ご協力いただきますようお願いいたします。



平成29年度 青木小学校学校運営の重点

校長 吉澤 修一

「村の子どもは村で育てる」というキャッチフレーズのもと、青木村では特色ある教育活動が展開されています。学校・地域・家庭との連携・協働を大切にしながら、「ふるさと青木村に誇りをもち、様々な課題が山積する21世紀を背負って立っていける児童の育成」をめざし、微力ながら精一杯努めて参ります。どうぞよろしく願いいたします。

平成29年度の青木小学校は、30名の新入生と8名の新しい先生方を迎え、全校児童234名、職員29名でスタートしました。学校教育目標「あかるい子 かっこいい子 たくましい子」を具現するために、今年度の重点目標を次のように決めました。



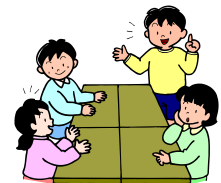
1 「あいさつ」 あかるく進んであいさつし、自分とまわりの人の気持ちをつなげよう

キーワードは「進んで」。友だちや先生、地域の方に自分から気持ちのよいあいさつをするよう心がけます。



2 「学び合い」 自分の意見を持ち、友だちと関わりながら自分の考えを深めていこう

キーワードは「自分で持ち、深める」。自分で考えて判断し、友だちと話し合い、友だちのよさに学びながら考えを深めていきます。



3 「無言清掃」 気づきの掃除、自分の心も磨こう

キーワードは「気づき」。よごれを見落とすことのないよう、一人になって、校舎と心を磨きます。



4 「体力づくり」 運動や遊びで毎日体を動かし、体をきたえよう

キーワードは「毎日動かす」。運動も遊びも、毎日継続していくことで体力がつき、たくましい子になっていきます。



教育は、人と人とのかかわりの中で営まれるもの。必ずしもよいことばかりとはいかないでしょう。気にかかることがあったら、どんな小さなことでもお声がけください。ご相談ください。平成29年度、29名の職員でスタートした「チーム青木29」。ご家庭や地域の皆様と手を携え、子どもたちの教育にひたむきに当たって参りたいと思います。ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



平成29年度 青木中学校教育活動の重点

校長 依田 俊一

前任の清水校長先生から引き継ぎ、今年度着任致しました依田と申します。よろしくお願いいたします。

36名の新1年生、8名の新しい先生方を迎え、全校生徒96名で平成29年度がスタートしました。全学年が単級となった今年度、本校の学校運営のみならず、一方で時代もまた大きな転換点を迎えているように思います。現中3の生徒の皆さんが大学入試を迎える2020年には、センター試験から、主に「思考力・判断力・表現力」を問う「大学入学希望者学力評価テスト」への変更が検討されていますが、そこにも象徴されるよう、「何を知っているか、何ができるか」「知っていること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか」のバランスのとれた学びが求められています。積み重ね、受け継がれてきた青木中学校の様々な特色ある教育活動は、まさに今後求められる学びではないでしょうか。国際交流や伝統芸能、アイリスセミナー、ゴテラ（午後の寺子屋）やウィークエンドスタディ、少人数学習などの学力向上のための取り組み、PTAや保小中一貫教育など、どれも“青木の子どもたちのため”に、村をあげて応援していただけてきました。このように、地域連携は学力向上と別物ではなく、学力のベースとなるものであります。学校運営にあたり村費の先生をあてていただけていることも大きな力となっており、感謝しております。



以下、今年度の教育活動の重点を中心に述べさせていただきます。

1、今年度の重点

学校教育目標「強い意志・思いやり・郷土愛」を体現する生徒の姿をイメージし、「あいさつは自分から」と決めました。生徒の皆さんが、様々な場面で自信をもって朗らかに生活できることを目指していきたいと思います。

2、5つの実現したい姿

何年もかけて職員も生徒もこのことを目標として目指しています。継続することが大変難しいことであるからこそ、これらが特別（青木ブランド）であり、学校への誇り（青木プライド）であります。今年度も大事に取り組んでまいります。

5つの実現したい姿

- ①学び合い
- ②伝えよう、心の挨拶
- ③心を磨く清掃
- ④心に響く歌声
- ⑤心を耕す読書

3、安心・安全の学校生活をもとにした「自己肯定感」の育成

『授業づくり』『集団づくり』を今年度も継続して取り組んでいきます。成果が出てきていますのでさらに質をあげていきたいと思っています。生活全般にわたって「ありがとう」「うれしいな」「助かったよ」といった温かな言葉が交わされる学校を目指し、まず職員が率先して取り組み、安心でき活気ある集団づくりを進めて参りたいと思います。まず、特に授業づくりでは「学び合い」をより具体的に位置づけていくよう努めていきたいと考えております。

4、「あおきっ子教育ポイント5か条」から

第4,5条に関わるキャリア教育については、もとより地域と連携して行う諸活動そのものが大きな意義をもつものです。重ねて、行事等を再編しながら、今年度は2年生で2日間の職業体験学習を実施します。人や社会の役に立つ喜びや生きがい、その方の生き方に学びたいと思います。

また、第3条の「時間の使い方」は、メディアと生徒の皆さんとの望ましい距離感を親子ともに自覚していくためにも、ご家庭と学校、さらに小学校とも連携しながら取り組んでいきたい内容です。定期テスト前にノーメディアウィーク等の取り組みをしていきたいと思っております。

我々職員は、生徒の皆さんの成長と共にありたいと切に願います。生徒の皆さんにとって必要なことを見極めながら、柔軟な学校運営に努めてまいります。ご心配なことがありましたら何とぞご相談ください。中学校職員一同、精一杯頑張ります。保護者、地域の方々、教育委員会、村当局のご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。



今月号と一緒に「平成29年度青木村の教育」「あおきっ子教育ポイント5か条」を配布いたしましたので合わせてご覧ください。